

---

gomu

葉っぱ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ごめん

### 【著者名】

N60530

### 【あらすじ】 葉っぱ

旅に出る 理由も規模も おのので

もう何時間走っているだろう

家を出た時間も覚えてないし

ここがどこかも分からぬ

ただ 風の音が脳を駆けずり回り

数メートル先を行く気持ちに

「ムのよつなもので引っ張られる

それは確か課題提出の間際だったと思う。流れ落ちる日常の中で、考えるともなく考えた、住宅の模型を作っていた。あらためて見ると、何の考えも詰まつていないと、ただの箱だった。あれ？ あんなに考えたはずなのに、今この手で作り上げている模型は、何の変哲もないただの箱でしかない。

突然 携帯電話が怒声を上げる

授業中、寝ていて先生に不意を突かれるような

その電話は 友達が学校をやめるといつ頃のもの

電話を壁面に叩きつけ、でもしっかりと財布は持つて、コートを着て、僕は飛び出したのである。しつかり準備をしたうえで、

目的地は横浜にした。ある種憧れがあった。時計は零時を回っていた。『一トを脱ぎ棄てることも、公園の柵をぶち壊すこともできず』に、ただただ左右に足を漕ぎ出す

車は悠々と僕を追い越し、すれ違つランナーたちの気配が、太いゴムのようになつて僕に巻きついて、背中側にぐいんぐいんと引っ張つていく。僕はそのゴムが切れるまで、懸命に筋肉を躍動させる。ゴムが切れるとき、体がふつと軽くなつて、上半身が腰から前のめりになる。そして先へ、ひたすら先へ。

橋の真ん中に来て初めて、今自分がどこにいるのかに気がつく。県境とはいっても何があるわけでもなく、ただ長く深い水の塊が、僕には聞くことのできない音を立て、のたうちまわつていて

何にしてもそうだが、半分すぎたあたりに後悔が胸を浸食してくる、寒さとそれを押し込めて、僕は前へ突き進む

そつとして見えてきた、みなとみらいランニングマーク

今思えば、あそこで感動のピークが押し寄せた

後はただ、回転活動をやめた巨大遊具と向こうの岸の見えてしまつて、いる海が、限りある広がりをみせていた

何を得たわけでもない。体力と途中買った肉まん代を失つた

でも恐怖心やその他もろもろも同時に消え失してくれた。

重い体と多少軽くなつた心を従えて、家から引っ張つてきた、伸びきつたゴムをたどつて、家に帰ることにしよう



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6053o/>

---

gomu

2010年10月31日03時34分発行